

# 行政視察報告書

平成 30 年 7 月 9 日

貝塚市議会議長 田畑 庄司 殿

自由市民 田中 学  
食野 雅由  
議長 田畑 庄司

今回の視察は、貝塚市が推し進めるクリケットによる町おこしと、市庁舎建替えに関するノウハウを高めるために、同じ問題意識を共有する新政クラブの議員 4 名とともに総勢 7 名で視察を実施しました。

## 第 1 日 平成 30 年 7 月 3 日（火） クリケットによる町おこしについて

午後 1 時 30 分前、佐野市役所に到着。観光スポーツ部スポーツ立市推進課スポーツ立市推進係主査の萱原崇氏と「クリケットタウン佐野プロジェクト」地域価値創造マネージャーの秋山仁雄氏に説明いただきました。

平成 19 年に民間団体のクリケット協会佐野支部が佐野駅前に事務所を設置し、平成 22 年にクリケット協会全体の事務局を佐野市に移転され、翌年に「クリケットのまち佐野」サポータークラブが設立されました。行政の取組みは、平成 20 年に渡良瀬川河川敷へのクリケットグラウンド設置支援、平成 21 年に国際交流を兼ねた学校訪問の受入れ、平成 24 年にクリケットを「佐野ブランド」に認証、平成 26 年に総合計画の中にスポーツ立市の推進を加え佐野市スポーツツーリズム推進基本計画を策定、平成 28 年には佐野市国際クリケット場条例施行し、平成 29 年から教育現場においても、初心者でも取り組めるクリケットの授業プランを実施され、クリケット協会が小学校 19 校を計 187 回訪問し、延べ 4,952 人が体験されました。本場イギリスへの訪問や一流プレイヤーの招致などに取り組んでいかれたそうです。又、国の補助事業として地方創生の交付金の申請をされ、「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトとして譲与を受けた田沼高校跡地を活用し、世界で 2 番目に競技人口の多いクリケットをインバウンド誘客のコンテンツとする事業を目指されました。平成 29 年度に地方創生交付金総額 146,982 千円を受け事業展開されました。国の交付金の獲得は大きなポイントであることは言うまでもなく、貝塚市においても最重要課題であると思います。

更なる事業展開に向け、平成 29 年にプロジェクトマネージャーの採用を決められました。プロジェクトマネージャーに求めるものは、国の地方創生推進交付金の採択を受け実施することと、予め問題と課題を設定された課題解決型ではなく、交付金終了後の 4 年目から何をしていくか、設定すべき問題は何かを考えプロジェクト創造することから始める事だそ

うです。今年の6月にマネージャーに就任されたのが、前職がURの職員であった秋山氏です。マネージャーは市職員ではありません。秋山氏は、クリケットの持つポテンシャルはとても大きく、特にインドはアジアで最も競技人口が多く、20年後の人口は中国を抜いて世界1位になると言われており、日本とインドの国際交流に大きな役割を果たすであろうと仰っていました。



その後、質疑応答と意見交換を交わし、日本クリケット協会のある田沼高校跡地に向かいました。日本クリケット協会の宮地直樹事務局長と弟の宮地直実ジュニア普及コーディネーターの出迎えを受け、早速グラウンドの視察を行いました。芝生の状況、ピッチの整備のノウハウを伺い、本格的なグラウンドの様子を体験しました。又ネットを張った練習スペースで実際にプレイを体験しました。流石に野球の原型であることから、野球文化が浸透している日本においてはルールを理解やプレイはすぐに日本人に馴染むと思いました。



グラウンドの視察の後、事務所において今後の展開や貝塚における取組みについての意見や要望を交わし、この日の視察を終了しました。

## 第2日 平成30年7月4日（水）庁舎建替えについて

今年の6月に新庁舎をオープンさせた埼玉県吉川市の視察を行いました。吉川市は、人口72,000人、面積31キロ㎡と貝塚市と規模が近く先行して庁舎建設に取り組みられた経過や手法を伺い、本市の参考にしたいと思い実施しました。

午後1時に吉川市役所に到着し、3階建の庁舎の美しい姿に快い気分になりました。早速会議室に案内され視察が始まりました。



戸張悦男総務部副部長兼財政課長、若林博之同課庁舎整備担当副主幹兼管財係長、中嶋美果同課営繕係長、中川康彦同課主事が説明してくださりました。旧庁舎は、昭和43年10月の建築で平成17年に耐震第1次診断を実施、その結果、大地震時に崩壊する危険性が高いと診断されました。平成23年3月の東日本大震災の発生時に本庁舎の窓ガラスの破損、外壁タイル破損・落下壁の亀裂等が発生、これを機に執行部、議会ともに新庁舎建設に向けた取組みが始まり、平成24年11月に新庁舎基本構想策定、その後、近隣自治会への説明会の実施や、パブリックコメントの実施を経て平成25年8月に新庁舎建築設計業務委託契約を締結し、基本設計に対してパブリックコメントや市民説明会等を実施して、新庁舎実施設計を策定されました。その中で当時東洋ゴムの免震材料の不正があり設計変更され、その結果建築費の軽減になったそうです。一連の説明を受けた後、新庁舎の見学をしました。事務所は、スタイリッシュかつコンパクトで機能性に満ちた素晴らしいものでした。又、議場はフラットで傍聴席との間が少なく、理事者・議員・傍聴者の距離が小さく、開かれた議場であると感じました。そして建設費は、土地約15,000㎡20億円、建築面積1,575㎡延べ床面積8,229㎡（3階建て）の建築費約36億円で、我々が思っていた以上に土地の費用が高く、建築費が安いと感じました。その後、質疑応答と意見交換をし、視察を終えました。



吉川市の視察の後、衆議院第1会館の谷川とむ代議士の事務所を訪問し、国土交通省に帰省された波多野前副市長と再会をした席上、谷川代議士には、国会内でクリケット議連の立上げを依頼し、波多野前副市長には省内からの支援をお願いしました。谷川代議士は前向きに議連の立上げの構想を述べられていました。又、波多野前副市長はクリケットの町づくりの提案者であることから、これからの取組みに大いに協力して頂きたいものです。